

# 『智山年表「近世篇」』からの語彙と用例採取について

—「講義・講伝・伝授」—

田村宗英

はじめに

前回の現代密教第二十七号では、『智山年表「近現代篇」』における語彙と用例採取を行い、特定の項目を取り出し一覧表を提示、その上で考察を加えた。今回はその延長として、『智山年表「近世篇」』を採り上げる。

ここで、本研究に取り組んだ経緯について述べておきたい。前回と重複する部分ではあるが、智山伝法院では、平成二十五年から二十七年にかけて「教学を再考する」というテーマを設けて研究会や講習会を行った。このテーマの意図するところは、現代密教第二十六号掲載の巻頭言や論文等で述べられている通り、僧侶の学びは事相と教相の双修が基本であるが、両者が乖離しているのではないかとという指摘に端を発している。さらに、真言密教の伝統としての学び、「教学」とは何かということを改めて考えてみた場合、私たちが一般的に使っている「教学」という言葉自体も甚だ不明確であるということが大きな問題点として浮上してきた。また、「教学」との関係性

が深い「講義・講伝・伝授」という言葉についても範疇や枠組みが明示されていないことがわかり、これら一連の考察が「教学を再考する」というテーマを掲げる契機となった。

そこで本研究では、言葉の枠組みや範疇が明確ではない「講義・講伝・伝授」について過去の用例に遡り、どのように使われてきたのかを考察するものである。これは、平成二十五年に高野山大学教授の佐藤隆彦師、平成二十六年には真言宗豊山派事相研究所長の石井祐聖師をお招きして講習会や研究会を開催したことを背景としている。両師にはそれぞれ「教学」と関連する「講義・講伝・伝授」について、その言葉の範疇や使い分け等についてご講義頂いたが、その中でも本研究では石井師にご提示いただいた分類資料、これは真言宗豊山派事務所発行『改訂増補 豊山年表』から特定の項目を取り出し視認性の高い一覧表にしたものであるが、この資料と作成方法を参考にし取り組んだ。

研究範囲と方法、また採取した語彙等については次の通りである。

#### 《研究範囲と方法》

##### ● 江戸時代

● 『智山年表「近世篇」』（平成二十六年三月二十一日、真言宗智山派宗務庁）から語彙と用例を採取し、一覧にする。

その上で、特定の傾向があるのか否かについて考察を加える。

#### 《採取した語彙と用例》

● 「講義」「講伝」「伝授」を中心に採取。

## 考察

使われている回数が最も多いのは「伝授」であり、次いで「講義」、「講伝」となる。これは、前回の「近現代篇」と同じ傾向である。

### 一、「伝授」

掲載件数 三百十三件

一覧表から内容をみていくと、事相に関するもの全般を「伝授」としていることがわかる。これに関しては、前回みた近現代においても同じ使われ方をしているため、江戸期から現在に至るまで、事相に関わる内容は「伝授」という語を一貫して使用していることが判明する。

「伝授」に加えて「伝受」という語も使用されている。現在は「伝授を行う／受ける」等というように表現するが、近世においては教えを「授ける」「受ける」という立ち位置の違いを明確に使い分けて表現しているため「伝授」「伝受」という語が表出している。また、前回は書籍名に「伝授」が入っている場合を除いたのであるが、今回は入れている。なぜなら近世の場合は、師僧から伝授を受けてから書籍の書写が許され、その後、伝授を受けた弟子が伝授の内容もしくは自分自身の解釈も加えて『伝授録／伝受録』等という書物を著す流れになっているためである。

伝授の内容について、近現代では報恩院流が一番多くの割合を占めていたが、近世においては法流が多岐にわたっている。そして、伝授の場所も高野山や醍醐寺、根来寺などと幅広い。これは、法流における本寺と末寺の

関係が色濃く反映され、新義や古義という垣根を越えて活発に交流していたことを裏付けるものである。

一覽表の中で二十五年間、もしくは十五年間、伝授という語が使われていない期間がある。これは伝授という語こそ使われてはいないのだが、同じ意味で用いられている「授ける／授けられる」という語で代用されている箇所が多数あるからである。そのため、この期間に伝授が行われていなかったというわけではない。

## 二、「講義」

掲載件数 八十一件

一覽表から講義の内容を見ると、二十五卷章に関するものが一番多い。次いで論議に関するものや『俱舍論』、唯識に関連するものが多く見受けられる。ここから、前回まとめた近現代においても二十五卷章に関するものが一番多かったのも、「講義」という語は江戸期から現代に至るまで、二十五卷章に関するもの、つまり現在でいうところの教相全般について使用されていたと判断される。

一方、一八三二（天保三）年一月に「大幢房信海（智積院第三十七世）、智積院智本房海応化主の講義を受け、『大疏伝授私記』を書写し校合する」とある。この表記を見ると、講義の内容は『大日経疏』についてであるとわかるのだが、書写した書籍名には「伝授」と入っている。そこから「講義」伝授」として使われていると考えられる。今回の一覽表からはこの一例のみなので、明確ではないが、近世においては講義も伝授の一形態と捉えられていた、また、現在よりも明確な区分はなされていなかったと推測できる。

### 三、「講伝」

掲載件数 二件

掲載件数が、伝授や講義に比べて圧倒的に少ない。そのため、はっきりとした傾向をつかむのは大変難しいといえる。前回の近現代においても用例が少なかったのだが、使用頻度順にみると、『理趣経』、次いで『大日経奥疏』が挙げられる。他宗については、高野の佐藤師と豊山の石井師の指摘から『大日経奥疏』、『金剛頂経』、『理趣経』、『秘密儀軌』、『秘藏記』、『御遺告』、曼荼羅が挙げられ、これは智山派と同様の使い方だといえる。

今回は二件のみである上に、内容が明示されているものは一件に限られる。この一件を詳しくみると、一七七(明和八)年に「前化主慈譚房浄空(智積院第二〇世)、京都北野大報恩寺で「六積・転声」を講伝する」とある。ここに出てくる「六積・転声」というのは、「六離合積・八転声」の省略形で、六離合積とは梵語(サンクリット語)における名詞複合語を六種類に細分化して解釈すること、そして八転声は、梵語における八種類の格変化(名詞・形容詞・代名詞などの語尾変化)のことを指している。どちらも梵語を理解する上で必須の文法であり、日本語とは大きく異なる文法的特徴といえる。

ここで、前回の用例で特徴的な点を挙げると、智山派のみが悉曇や声明について「講伝」を使用している点である。今回も一例とはいえ梵語<sup>2)</sup>について、「講伝」が使われているところを見ると、江戸期からすでに智山派特有の使われ方がなされていたと考えられるかもしれない。

また、前回「講伝」という語の初例について、智山伝法院嘱託研究員の貝谷隆慧師が現代密教第二十六号「講

伝の意義とその濫觴<sup>③</sup>」において、高野山の学匠道応（一八〇六一—一八七五）による『秘蔵記鈔』の奥書に「明治三年庚午十一月当記講伝」とあるのを「講伝」の初例として挙げている点、また、作成した一覽表から一番古い用例を取り出すと明治十五年であると指摘したが、今回の一番古い用例を挙げると、一六〇三（慶長八）年になる。

### わごうご

ここまで『智山年表「近世篇」』から見出される傾向や特徴を一覽表からわかる範囲で述べてきた。前回まとめた近現代と比較してみると、伝授・講義・講伝ともに、概ね現在と同じような使われ方をしていると判断される。

今回は「講義・講伝・伝授」という三つの語について見てきたが、その他にも似た語として「伝習」や「口授」「受法」「講説」などという語も多数見受けられた。今後、これらの用語にも着目して、比較検討できればと考えている。

### 〔凡例〕

・『智山年表「近世篇」』の表記をそのまま引用しているが、誤字脱字等は訂正して表記した。

・事項の文末にある「智積院史」等という表記は『智山年表「近世篇」』の編纂過程で典拠にした資料を示した略号である。また、月日の項で④等という表記は閏月を示している。詳しくは『智山年表「近世篇」』の「凡例」と「出典一覽・参考資料」を参照のこす。

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

## 《伝授》

番号	西暦	和暦	月日	事項
9	一五五八	永祿一	四月下旬	円清房頼雄、醍醐寺西谷釈迦院で、源雅大僧正に伝授され書写する。〔全末目録〕
8	一五五八	永祿一	四月下旬	円清房頼雄、醍醐寺で源正大僧正から秘鈔伝授の際に隆源本『理智二筆事』を書写する。〔全末目録〕
7	一五五八	永祿一	四月下旬	円清房頼雄、醍醐寺で行樹院澄恵僧正自筆本『阿闍梨位事他』を伝授され書写する。〔全末目録〕
6	一五五八	永祿一	四月二十五日	円清房頼雄、醍醐寺住山の際、行樹院澄恵僧正自筆本『松橋流印信阿闍梨位事』を同院深心法印に従い伝授され書写する。〔全末目録〕
5	一五五八	永祿一	四月二十四日	円清房頼雄、醍醐寺で、行樹院澄恵僧正自筆本『俊盛法印私記』を伝授され書写する。〔全末目録〕
4	一五五八	永祿一	四月二十三日	円清房頼雄、醍醐寺で、戒光院本『灌頂三重次第』および行樹院澄恵自筆本『深秘三重 他』を書写し、行樹院深心法印から澄恵自筆本『松橋流諸大事』を伝授され書写する。〔全末目録〕
3	一五五七	弘治三	九月	『最秘卷』を伝領する。〔全末目録〕
2	一五五六	弘治二	八月二十一日	玄紹房日秀、醍醐寺報恩院で源雅より伝授の際、『伝授目録』『秘鈔伝受次第』『報恩院総伝授読曲』『秘鈔目録』を書写する。またこのほか『秘鈔表白集二卷』『巻数集一巻』『支度集一巻』
1	一五五六	弘治二	四月	快音、頼印から「即身義大事」「秘密伝法灌頂秘印」「釈論大事」を伝授される。〔前末目録〕 寿護法録 堯円房実宥（陸奥国岩城葉王寺第十世）、根来寺で文殊院快伝僧都から秘訣を伝授される。〔延

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
一五六六	一五六六	一五六五	一五六五	一五六五	一五六三	一五六二	一五六二	一五六一	一五六〇	一五六〇	一五五九	一五五八
永祿九	永祿九	永祿八	永祿八	永祿八	永祿六	永祿五	永祿五	永祿四	永祿三	永祿三	永祿二	永祿一
十二月十二日	二月十六日	十二月	二月十日	二月七日	八月十九日	十月五日	七月二十八日	八月二十四日	三月六日	二月二十四日	十二月三日	六月一日
長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺智積院で玄紹房日秀口伝分『普賢延命護摩同口抄』を伝授され著す。〔新文庫〕	快慶、近江国竹生島西方院で『許可略作法』を伝授され書写する。〔全末目録〕	頼心房性盛、醍醐寺寂靜院で行樹院深応から『金剛界念誦次第』『胎藏界念誦次第』を伝授され書写する。また三宝院印可、成賢僧正頸次第、頼瑜抄物押紙等を伝授される。〔新文庫、全末目録〕	匠目録 長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺智積院で玄紹房日秀から胎藏界念誦次第を伝授される。〔学	朝純房純瑜(陸奥国岩城薬王寺第八世)、「大事醍醐座主相伝事」を伝授される。〔全末目録〕	本『四種之護摩』を書写する。〔新文庫〕	長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺智積院で玄紹房日秀から『阿弥陀護摩』を伝授され書写する。〔新文庫〕	長善房祐宜(智積院第二世)、玄紹房日秀から『秘鈔伝授次第 伝授目録』を書写する。〔全末目録〕	根来寺妙音院快伝、玄紹房日秀本『秘鈔伝授次第 伝授目録』を書写する。〔全末目録〕	純正房源恵、高尾山薬王院第七世源智から「大尔重(第二重)」「大山住(第三重)」を伝授される。〔全末目録〕	吽照、覚意から「三宝院第三重事」を伝授される。〔全末目録〕	長善房祐宜(智積院第二世)、如意輪寺俊頼から「荒神一印法」を伝授される。〔新文庫〕	清勝、円清房頼雄から「清滝託宣印明事」を伝授される。〔全末目録〕



『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
一五七二	一五七一	一五七〇	一五七〇	一五七〇	一五七〇	一五六八	一五六八	一五六八	一五六八	一五六八	一五六七	一五六七
元亀三	元亀二	元亀一	元亀一	元亀一	元亀一	永禄十一	永禄十一	永禄十一	永禄十一	永禄十一	永禄十	永禄十
三月三日	一月十五日	十月	九月十八日	四月	三月八日	十月九日	八月二十一日	五月	三月	三月	九月	一月二十四日
定識房頼玄、賢賀に「引導秘事」を伝授する。〔全末目録〕	頼心房性盛（長谷寺第二世）、醍醐寺報恩院源雅僧正から「二 礼拝日記」を伝授され書写する。〔全末目録〕	〔同書奥書〕 長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺理智乗院で伝授された際、『十六公通路祭文』を書写する。	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺理智乗院で『伝法灌頂次第』を伝授され、翌十月『聖融記次第』と校合し、『伝法灌頂私記』を著す。〔学匠目録、新文庫、全末目録〕	写す。〔新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺智積院で六字護摩伝授の際、『六字経法私記 本』を書写する。〔全末目録〕	に著す。〔全末目録〕	長弁、醍醐東坊で弘鏡から「御口決」を伝授され、高野山三密院で『醍醐八十条 附全章創記』に著す。〔全末目録〕	清雄、法印円清房頼雄から「引導秘法」「菩提心論八葉觀」「菩提心論大事」を伝授される。〔全末目録〕	清雄、円清房頼雄から「振鈴口決 口伝在之」を伝授される。〔全末目録〕	頼音、快音から「妙拳士手明」を伝授される。〔全末目録〕	清雄、円清房頼雄から「午水大事口決」を伝授される。〔全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺で『伝授之目録』を書写する。〔全末目録〕

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
一五七五	一五七四	一五七四	一五七四	一五七四	一五七四	一五七四	一五七四	一五七四	一五七二
天正三	天正二	天正二	天正二	天正二	天正二	天正二	天正二	天正二	元龜三
二月十一日	十一月十一日	十一月上旬	十一月一日	十月二十八日	十月十七日	七月九日	四月七日	三月	六月二十六日
長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺で『八文殊法秘伝鈔』を著す。〔学匠目録〕	長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺蓮華院で『不動法秘伝鈔』を著す。〔学匠目録、智山書庫〕	長善房祐宜(智積院第二世)、円聖房景嚴大僧正から『如宝愛染王法』を伝授され書写する。〔新文庫〕	長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺で『大疏第四論義智小口鈔』を伝授され書写する。〔新文庫〕	長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺蓮華院で『去識還来』を伝授される。翌二十九日、『去識還来秘伝鈔』を著す。〔学匠目録、新文庫〕	匠目録、新文庫、全末目録〕 長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺で『愛染王法 付三十七尊記之』を書写し、僧正口伝分『愛染法秘伝鈔』を著す(二十一日)。〔学匠目録、新文庫、全末目録〕	長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺で『胎藏界次第一』を伝授され、『胎藏界秘伝鈔』を著す。〔学匠目録、新文庫〕	長善房祐宜(智積院第二世)、根来寺で『二十四重秘伝鈔』を伝授され校合する。〔全末目録〕	長善房祐宜(智積院第二世)、高野山長光院内に住山の際、『地鎮々壇合行法』を伝授され清書する。〔新文庫〕	告私』を著す。〔同書奥書、全末目録、学匠目録〕 長善房祐宜(智積院第二世)、高野山北室院で『御遺告』を伝授され、師の口伝を加え、『御遺告私』を著す。〔同書奥書、全末目録、学匠目録〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
一五七六	一五七六	一五七六	一五七六	一五七五	一五七五	一五七五	一五七五	一五七五	一五七五	一五七五
天正四	天正四	天正四	天正四	天正三	天正三	天正三	天正三	天正三	天正三	天正三
三月二十一日	三月十六日	一月二十一日	一月十七日	八月二十四日	六月	五月下旬	二月	二月	二月二十一日	二月十三日
長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺で円聖房景嚴大僧正から『許可秘伝幸心方』を授けられ書写する。〔全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、天正三年高野山で伝授され著した『許可秘伝幸心方』を授けられ書写する。〔全末目録、学匠目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、天正二年十月二十日に根来寺で円聖房景嚴から伝授され著した『愛染法秘伝鈔』に口決を加え清書する。〔智山書庫、学匠目録、全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺での諸尊法伝授に際し、天正二年十一月に著した『不動法秘伝鈔』を改訂する。〔学匠目録、大須目録、全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、先年伝授され著した『御遺告私』に加筆し、『御遺告私類聚抄下 第廿二段以下』を著す。〔全末目録、同書奥書、新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺で景嚴大僧正本『地鎮鎮壇行法次第 増益』を書写し伝授される。〔新文庫〕	下総国佐倉惠光院尊快、根来寺中性院で道傳法印から『胎藏界入理鈔』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、円聖房景嚴大僧正本『水天供』を伝授され書写する。〔新文庫、全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺蓮華院で円聖房景嚴大僧正本『童子経書写供養作法 私』を伝授され書写する。〔童子経広本絵図〕も別に写す。〔新文庫、全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺で円聖房景嚴大僧正から『仏説護諸童子陀羅尼呪経』を伝授され書写する。〔全末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺蓮華院愛染堂で、口伝分『愛染伝莊嚴図』を伝授され書写する。〔新文庫〕

68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57
一五八〇	一五七八	一五七七	一五七七	一五七七	一五七七	一五七七	一五七六	一五七六	一五七六	一五七六	一五七六
天正八	天正六	天正五	天正五	天正五	天正五	天正五	天正四	天正四	天正四	天正四	天正四
この年	三月二十三日	八月八日	七月三日	七月一日	六月二十八日	四月十八日	七月	七月二十一日	七月一日	六月二十三日	六月十日
堯遍、根来寺普門院で頼心房性盛から「千日護摩中不動大事」を伝授される。〔大須目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、深音房実海から「十二重大日灌頂」を伝授される。〔新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で諸国の衆僧に「阿弥陀法」を伝授する。その際、「阿弥陀法秘伝鈔」を著す。〔学匠目録、新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で諸国の衆僧に「大威徳護摩法」を伝授する。その際、「大威徳護摩直談鈔」を著す。〔学匠目録、新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で諸国の衆僧に「降三世護摩法」を伝授し、「降三世護摩直談鈔」を著す。〔新文庫、学匠目録、大須目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で諸国の衆僧に「不動護摩私記直談鈔」を著す。〔学匠目録、智山書庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で諸国の衆僧に「護摩法」を伝授する。その際、「不動護摩私記直談鈔」を著す。〔学匠目録、智山書庫〕	尊鎮、「聖天秘印」を齋眺から伝授される。〔新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で諸国の衆僧に対し「十八道」を伝授する。〔学匠目録、末目録〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山で「十八道直談鈔上」を諸国の衆僧に伝授し著す。〔全末目録〕	俊賢、高野山大衆院で「求聞持次第口決」を伝授される。〔新文庫〕	長善房祐宜（智積院第二世）、高野山金剛峯寺で円聖房景嚴大僧正口伝分「瑜祇経秘伝鈔 七十四」を伝授され書写する。〔新文庫〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69
一六〇七	一六〇二	一六〇一	一五九九	一五九七	一五九七	一五九六	一五九六	一五八九	一五八八	一五八七	一五八七	一五八一
慶長十二	慶長七	慶長六	慶長四	慶長二	慶長二	慶長一	慶長一	天正十七	天正十六	天正十五	天正十五	天正九
二月十二日	五月二十九日	八月八日	八月二十一日	七月二十八日	三月十七日	九月二十五日	七月三十一日	八月二十一日	八月下旬	この年	六月一日	七月二十一日
圭弁、智積院長善房祐宜化主から『童子教書写供養作法』を伝授され書写する〔全末目録〕	秀盛、頼心房性盛（長谷寺二世）から『三種秘法』を伝授される。〔大須目録〕	『金剛界秘伝鈔』を著す。〔学匠目録〕 長善房祐宜（智積院二世）、陸奥国岩城薬王寺で所化衆に『金剛界次第』を伝授する。その際、	頼心房性盛（長谷寺二世）、秀盛から『金即身成仏堅五輪』を伝授される。〔大須目録〕	灌頂三摩耶戒』を著す。〔全末目録〕	頼心房性盛（長谷寺二世）、醍醐寺報恩院源雅から『三摩耶戒』を伝授され、『私記伝法	長善房祐宜（智積院二世）、陸奥国岩城薬王寺で天正三年二月十一日に伝授された景厳大僧正口伝分「八字文殊法秘伝鈔」を清書し、「八字文殊法」を伝授する。〔学匠目録、新文庫〕	智積院堯性房女宥化主、高雄山で『御遺告』を書写し、所化衆に伝授する。〔同書奥書〕	智積院堯性房女宥化主、亮賀に「聖天供次第」を伝授する。〔新文庫〕	武藏国百間西光院日雄、長善房祐宜（智積院二世）から『瑜祇灌頂 理趣灌頂』を伝授される。〔全末目録〕	肥後国願成寺勢辰、醍醐寺行樹院で『薄草子伝授問書』を書写する。〔智山書庫〕	長善房祐宜（智積院二世）、下野国桑島金剛定寺で『廿四帖』を伝授し著す。〔全末目録〕	智積院堯性房女宥化主、堺で日輪院長瑜から『御遺告』を伝授される。〔同書奥書〕 ごとく伝授する。〔延寿護法録〕

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82
一六五九	一六五九	一六三四	一六三一	一六三〇	一六二五	一六二五	一六一五	一六一二	一六〇九	一六〇八	一六〇八
万治二	万治二	寛永十一	寛永八	寛永七	寛永二	寛永二	元和一	慶長十七	慶長十四	慶長十三	慶長十三
この年	二月上旬	六月	八月十四日	三月二十日	六月	一月下旬	三月二十一日	六月	八月九日	八月	五月
肥前国最教寺覚因、長谷寺十輪院で『合光記』を伝授される。〔全末目録〕	肥前国最教寺覚因、長谷寺十輪院で『求聞持次第極秘』を書写し伝授される。〔全末目録〕	乗憲房隆鏡（真福寺第五世）、智積院長存房元寿化主を伝授阿闍梨として四度加行を行う。〔真福寺歴代譜〕	受作法法』を閲覧し修理を加える。〔全末目録〕	頼心房尊慶（長谷寺第五世）、智積院正純房日誉化主伝領の長善房祐且本「真言伝作法異本	堯温房良誉（長谷寺第六世）、長存房元寿（智積院第四世）から「三方相承 一印一明」を伝授される。〔全末目録〕	長存房元寿（智積院第四世）、醍醐寺三宝院義演から伝授された『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇經品一』を書写する。〔同書奥書〕	長存房元寿（智積院第四世）、醍醐寺三宝院義演本『三宝院伝授次第』を書写する。〔智山書庫〕	永慶、智積院で智積院正純房日誉化主から『瑜祇經』を伝授される。〔全末目録〕	賢真等に伝授する。〔学匠目録〕	智積院長善房祐宜化主、智積院で意教流願行方の一流伝授を行い、正純房日誉（智積院第三世）・賢真等に伝授する。〔学匠目録〕	智積院長善房祐宜化主、智積院で諸国の所化衆らに法流伝授を行う。その際、天正十九年四月陸奥国岩城葉王寺で記した『愚佐鈔』（『現過当覚鈔』）を再治し伝授する。〔新文庫、学匠目録〕

『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
一六七九	一六七九	一六七四	一六七四	一六七三	一六七二	一六七〇	一六七〇	一六六九	一六六五	一六六四	一六六一
延宝七	延宝七	延宝二	延宝二	延宝一	寛文十二	寛文十	寛文十	寛文九	寛文五	寛文四	寛文一
四月	三月七日	この年	十二月十日	八月上旬	三月二十三日	八月六日	一月	五月	七月一日	この年	五月十二日
<p>文識房宥鏡（智積院第九世）、智積院元春房運敵化主から『伝法許可灌頂印信血脈』を伝授される。〔全末目録〕</p>	<p>文識房宥鏡（智積院第九世）、智積院元春房運敵化主から「越三味耶大事」等を伝授される。〔全末目録〕</p>	<p>江戸愛宕真福寺乗憲房隆鏡、常陸国下妻観音寺で隆珊に庭儀灌頂を伝授する。〔真福寺列祖伝、真福寺歴代譜〕</p>	<p>芳春房専戒（智積院第十世）、『弁財天法』を書写し、存良房長智に伝授する。〔全末目録〕</p>	<p>快盛、俊盛大阿闍梨本『大日経疏伝授手鑑』を書写する。〔全末目録〕</p>	<p>文識房宥鏡（智積院第九世）、宥濟から阿闍梨位・聖天灌頂大事・阿弥陀灌頂・第二重を伝授される。〔全末目録〕</p>	<p>文識房宥鏡（智積院第九世）、宥濟から「第二重」「第三重」等を伝授される。〔全末目録〕</p>	<p>陸奥国仙台忠円房雄誉、文識房宥鏡（智積院第九世）から『如法愛染法』『御衣木加持作法』を伝授され、如春に書写させる。〔全末目録〕</p>	<p>栄秘、『奥疏伝授手鑑 同来由同後問答』に加点する。〔全末目録〕</p>	<p>寂照、信濃国松城開善寺で伝授された『施餓鬼法』を書写する。〔全末目録〕</p>	<p>是心房快存（智積院第十三世）、快義の薩摩国鹿兒島護国山大衆寺安養院への転住に従い、同寺で定濟方の四度を伝授され、加行を勤修する。〔全末目録〕</p>	<p>武蔵国菅谷観藏院作春房長祐、智積院在山の際、東寺法源院での伝授で『御室灌頂次第 下』『西院 護摩頸次第伝授鈔 胎藏界鈔』を伝領する。〔全末目録〕</p>

117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
一七一五	一七一二	一七〇七	一七〇二	一六九五	一六九五	一六九五	一六九五	一六九五	一六九五	一六九五	一六八〇
正徳五	正徳二	宝永四	元禄十五	元禄八	元禄八	元禄八	元禄八	元禄八	元禄八	元禄八	延宝八
十一月	三月	冬	二月	九月二日	八月二十一日	八月十七日	七月二十二日	夏	四月二十日	四月十二日	三月二十八日
智積院是心房快存化主、武蔵国深谷弥勒院に、法流伝授の許可状を発行する。〔埼玉県史〕	真快房鑿浄（智積院第十六世）、醍醐寺で十八道を伝授された際、『十八道契印生起』を授かり、書写する。〔智山書庫〕	是心房快存（智積院第十三世）、薩摩国大乘院騰雲から付法伝授される。〔智積院史〕	岳泉房亮範（智積院第十五世）、六波羅蜜寺普門院慈蓮房隆管から求聞持法および八千枚護摩を伝授され、『求聞持并八千枚口決』を書写する。〔智山書庫〕	空覚房覚眼（智積院第十一世）、『結縁灌頂式伝授記』を著す。〔智山書庫〕	灌頂金剛界伝授記』を著す。〔学匠目録〕	空覚房覚眼（智積院第十一世）、『伝法灌頂授記』を著す。〔学匠目録〕	空覚房覚眼（智積院第十一世）、醍醐寺報恩院有雅大僧正から秘抄を伝授され、『幸心有雅口秘抄伝授記』を著す。〔智山書庫〕	空覚房覚眼（智積院第十一世）、醍醐寺報恩院有雅大僧正から秘抄を伝授され、『胎藏界念誦次第を伝授される。それらをまとめ、『金剛界念誦次第伝授記』『胎藏界念誦次第伝授記』を著す。〔学匠目録〕	空覚房覚眼（智積院第十一世）、醍醐寺で『十八道伝授記』を著す。〔学匠目録〕	空覚房覚眼（智積院第十一世）、醍醐寺で結縁灌頂を受法する。（〓九月二日）。終了日に智積院に戻り、『結縁灌頂式伝授記』を著す。〔学匠目録〕	安房国府中宝珠院文識房有鏡（智積院第九世）、醍醐寺報恩院有雅から第二重を伝授される。〔全末目録〕



『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118
一七五七	一七五七	一七五七	一七五七	一七五七	一七五六	一七五六	一七五四	一七四〇	一七三九	一七三三	一七二二
宝曆七	宝曆七	宝曆七	宝曆七	宝曆七	宝曆六	宝曆六	宝曆四	元文五	元文四	享保十八	享保七
この年	八月	八月二十四日	夏	六月二日	十月八日	九月	この年	九月七日	六月	三月	秋
流を伝授される。〔智積院史〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、智積院本円房寛遠化主から玄紹房日秀および神照相承の法目録	通紹房動潮（智積院第二十三世）、洞泉房性善から「諸切紙」を伝授される。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十三世）、水本本『浴像作法 私』等を伝授され、書写し校合する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、醍醐寺で洞泉房性善から「幸心古仏撥遣」を伝授される。〔智山書庫〕	真詮房日鏡、『伝受集』を書写する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、洞泉房性善から「玄秘鈔」を伝授される。〔智山書庫〕	江戸愛宕円福寺本円房寛遠（智積院第十九世）、武蔵国石神井三宝寺智存の請いにより願行意教流を伝授し、また伝法院流聖教をすべて書写する。〔智積院史〕	恵旭房曇寂、『土巨流伝授目録』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	英仙、『神道口伝次第 吉田流』を伝授される。〔新文庫〕	山書庫 真快房鏤浄（智積院第十六世）、智積院岳泉房亮範化主から「中性院 横」を伝授される。〔智山書庫〕	真快房鏤浄（智積院第十六世）、醍醐寺西谷で伝授され書写した寛順本『胎蔵界入理鈔』を某人に校合させる。〔智山書庫〕

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130
一七五九	一七五九	一七五九	一七五九	一七五九	一七五八	一七五八	一七五八	一七五八	一七五八	一七五七
宝曆九	宝曆九	宝曆九	宝曆九	宝曆九	宝曆八	宝曆八	宝曆八	宝曆八	宝曆八	宝曆七
夏	五月	五月八日	四月	二月	九月二日	八月二十三日	六月	二月	二月	この年
琳珊房龍天（智積院第十七世、御室仁和寺真乘院有証から伝授された『広沢印可次第』『西院別行』を書写し、『広沢三卷式』『伝流鈔』を書写し校合する。〔運敵蔵〕	琳珊房龍天（智積院第十七世）、御室仁和寺真乘院有証から『要尊鈔』を伝授され書写する。〔運敵蔵〕	琳珊房龍天（智積院第十七世）、御室仁和寺真乘院有証から『十一日』。〔運敵蔵〕	琳珊房龍天（智積院第十七世）、御室仁和寺真乘院有証から伝授された『初夜胎藏』『四度次第』『伝流三卷式』を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十四世）、洞泉房性善から『施餓鬼法付一印法』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十三世）、洞泉房性善から『諸切紙』を伝授される。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、醍醐寺所蔵本『作法集并十五鬼神凶像』を書写し、その後、洞泉房性善から伝授される。〔智山書庫〕	真詮房日鏡、頼雄本『玄秘紗伝授口決』を書写する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、山城国瓶原貞福寺で洞泉房性善から伝授された『求聞持次第』『大日経爛脱』等を書写し校合する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、洞泉房性善から『禪観略作法』『文殊五十万遍作法』『文殊五十万遍略作法』を伝授される。〔智山書庫〕	覚山房隆雄、醍醐寺で洞泉房性善から報恩院流許可重位を伝授され、『重位口訣』を著す。〔智山書庫〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141
一七六三	一七六三	一七六二	一七六二	一七六二	一七六二	一七六一	一七五九	一七五九	一七五九	一七五九
宝暦十三	宝暦十三	宝暦十二	宝暦十二	宝暦十二	宝暦十二	宝暦十一	宝暦九	宝暦九	宝暦九	宝暦九
九月	三月	十一月	五月	三月	三月九日	八月	この年	秋	八月	七月
〔学匠目録〕 通紹房動潮（智積院第二十二世）、智積院梅寮で洞泉房性善から再び「厚双紙」を伝授される。	真俊房浄光（智積院第二十六世）、洞泉房性善から報恩院流を伝授された際に、「十八契印頌」を 書写する。〔智山書庫、学匠目録〕	院松橋流を智積院岸寮で伝授される。〔結繩伝〕	光海、法明本『不空金剛菩薩法』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、大和国室生寺本「伝流灌頂曼供要聞記」〔伝流印可諸大事 伝授記〕を書写し校合する。〔運敵蔵〕	琳珊房龍天（智積院第十七世）、快賢に伝法院流兼海方を伝授する。〔運敵蔵〕	周音房等空（智積院第二十一世）、洞泉房性善から伝授された「教授師行事」を書写する。〔智 山書庫〕	また「結縁灌頂三昧耶戒作法」〔諸尊通用行法次第〕「重書」〔出家略作法〕「灌頂儀軌」を書 写する。〔運敵蔵〕	合する。〔運敵蔵〕	琳珊房龍天（智積院第十七世）、御室仁和寺真乘院有証から伝授された「真言集」を書写し校 合する。〔運敵蔵〕	琳珊房龍天（智積院第十七世）、御室仁和寺真乘院有証から伝授された「十巻鈔」を書写する。 〔運敵蔵〕

163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152
一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六六	一七六六	一七六六	一七六六	一七六四	一七六三
明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和三	明和三	明和三	明和三	明和一	宝曆十三
四月三日	春	三月	三月十九日	三月十六日	三月八日	六月	六月十四日	五月二十六日	五月十日	六月上旬	この年
通紹房動潮（智積院第二十二世）、『伝受日記』を写す。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺宥證から伝授された『伝法院流 四度』を校合する。〔運敵蔵〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、御室仁和寺宥證から伝授された『伝金胎頸次第』を写す。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺宥證から伝授された『許受鈔』を写す。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺宥證から伝授された『伝流小卷』のうち「六字」を写し校合する。〔運敵蔵〕	『諸次第并口決』のうち、「四度表白 不動法 護摩表白」を写す。〔運敵蔵〕	真俊房淨光（智積院第二十六世）、覚山房隆雄から切紙口決を伝授される。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、智積院十善精舎で『厚双紙伝授手鑑』を著す。〔学匠目録〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、『玄秘鈔伝授手鑑』を著す。〔学匠目録〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、『金宝集伝授手鑑』を著す。〔学匠目録〕	実厳房鏝啓（智積院第十三世）、八幡松之坊所蔵本『玄秘鈔伝授聞書』を写し校合する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、洞泉房性善から伝授された報恩院一流の秘訣を記した『幸心流伝授手鏡』十五帖を著す。〔智積院史〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

173	172	171	170	169	168	167	166	165	164
一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七
明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四
七月二日	六月二十六日	五月二十九日	五月二十四日	五月二十二日	五月二十一日	五月十六日	五月十一日	四月二十六日	四月十四日
通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺真乘院有證から『沢方十卷鈔』を授かる（一七日）。また『図像鈔』『十卷鈔沢方』も同様に授かり、書写し校合する。さらに、伝授された『広沢光明真言法并土砂加持 阿弥陀法常抄』のうち『阿弥陀法常抄』を書写し校合する。〔智山書庫、学匠目録、運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『灌頂護摩次第後夜』を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『三教』を書写し校合し、また『結縁灌頂式』のうち『金剛界』を校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『保流伝法灌頂式』のうち『金剛界』を書写し、古本により校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『伝法灌頂式』を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『伝法三卷式』のうち『金剛界』を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『尊法鈔』のうち上巻を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『尊法鈔』のうち上巻を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『尊法鈔』のうち上巻を書写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺有證から伝授された『尊法鈔』のうち上巻を書写し校合する。〔運敵蔵〕

183	182	181	180	179	178	177	176	175	174
一七七七	一七七〇	一七六八	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七	一七六七
安永六	明和七	明和五	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四	明和四
十二月	一月十二日	三月	この年	この年	この年	この年	七月十八日	七月十三日	七月七日
真後房淨光（智積院第二十六世）、智積院通紹房動潮化主から智積院方丈で伝授された『両壇作法』を写す。〔智山書庫〕	文庫文書 六波羅蜜寺普門院第三十五世義順房賢慧、智積院に法流伝授願ならびに帰末願を提出する。〔新著す。〔学匠日録〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、洞泉房性善から作法集を伝授され、『作法集伝授手鑑』を	豊春房謙順（智積院第二十八世）、御室仁和寺宥證から「広沢招魂 伝加」・「広沢両部合行」を伝授される。〔智山書庫〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、御室仁和寺宥證から伝授された『調灌頂支具次第』を写す。〔智山書庫〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、御室仁和寺宥證から許可作法を伝授され、『許可作法開書』を写す。〔智山書庫〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、御室皆明寺で御室仁和寺宥證から伝授された『両界許可作法 醍醐』を写す。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、同月十三日に伝授された『光伝目録』を写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺宥證から『光伝目録』・『伝法灌頂一異義』が伝授され、そのうち『伝法灌頂一異義』を写し校合する。また同様に伝授された『沢抄』のうち、第十巻を写し校合する。〔運敵蔵〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、御室仁和寺宥證から伝授された『広沢曼荼羅供次第』を写し校合する。また同様に伝授された『灌頂要掌中抄』のうち、『三昧耶戒』を写し校合する。〔運敵蔵〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184
一七八四	一七八四	一七八一	一七八一	一七八一	一七八一	一七八一	一七八一	一七八一	一七八一	一七七八	一七七八
天明四	天明四	天明一	天明一	天明一	天明一	天明一	天明一	天明一	天明一	安永七	安永七
六月初旬	五月十七日	⑤月十一日	五月二十日	五月十一日	四月二十八日	四月二十一日	四月上旬	三月	三月二十九日	七月	五月二十八日
智積院実厳房鏡啓化主、『胎藏界伝授私記』を著す。〔学匠目録〕	智積院実厳房鏡啓化主、『金剛界伝授私記』を著す。〔学匠目録〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、先に著した『薄二重伝授手鑑』を清書する。〔智山書庫〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、自著『薄初重伝授手鑑』を自ら加筆し清書する。〔学匠目録〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、自著『薄二重伝授手鑑』を自ら加筆し清書する。〔学匠目録〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、『不動護摩伝授手鑑』を著す。〔学匠目録〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、自著『胎藏界伝授手鑑』を清書する。〔学匠目録、智山書庫〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、自著『金剛界伝授手鑑』および『動潮口決』を清書する。〔学匠目録、智山書庫〕	本周房宜探、円寿院で光厳から伝授された『神道口伝次第 吉田流』を書写し校合する。〔新文庫〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、自著『十八道伝授手鑑』を清書する。〔学匠目録、智山書庫〕	智積院通紹房動潮化主、受者四十五名に『作法集伝授手鑑』を伝授する。〔学匠目録〕	真俊房浄光（智積院第二十六世）、智積院通紹房動潮化主から阿弥陀第二重次第を伝授され、『阿弥陀法口決第三重』を書写し校合する。〔智山書庫〕

207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196
一七八九	一七八九	一七八九	一七八九	一七八九	一七八九	一七八八	一七八六	一七八六	一七八四	一七八四	一七八四
寛政一	寛政一	寛政一	寛政一	寛政一	寛政一	天明八	天明六	天明六	天明四	天明四	天明四
五月三日	五月二日	四月	四月六日	四月二日	四月一日	八月	八月	二月	八月	八月二十七日	六月二十三日
観如房元璩、通紹房動潮（智積院第二十二世）から『秘鈔手鑑』を伝授され、京都清和院で動潮本同書を書写する。〔智山書庫〕	観如房元璩、通紹房動潮（智積院第二十二世）から『施餓鬼法 付一印法』を伝授され、書写し校合する。〔智山書庫〕	観如房元璩、京都北野大報恩寺で『印仏作法 当流』を伝授され、書写し校合する。〔智山書庫〕	観如房元璩、胎蔵界を伝授された際、『薄初重二重伝授手鑑』甲巻を書写する。〔智山書庫〕	観如房元璩、通紹房動潮本『幸心四度薄秘妙手鑑』のうち「薄初重伝授手鑑」を書写する。〔智山書庫〕	観如房元璩、京都清和院で、先に通紹房動潮（智積院第二十二世）から伝授された『水天供籠索』を書写する。〔智山書庫〕	豊春房謙順（智積院第二十八世、智積院勸学院で六波羅蜜寺普門院浄眼房等慧から『引導作法』を伝授され書写する。〔智山書庫、新文庫〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、受者五名に「作法集伝授手鑑」を伝授する。〔学匠目録〕	前化主通紹房動潮（智積院第二十二世）、『大疏伝授抄』を慈忍に書写させ自ら校合する。〔智山書庫〕	真俊房浄光（智積院第二十六世）、澄弁から『靈供作法』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	真俊房浄光（智積院第二十六世）、澄弁から伝授された『光明真言法秘抄』を書写し校合する。〔智山書庫〕	智積院実厳房鑠啓化主、四度のうち護摩の伝授を行う。〔智山書庫〕



『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208
一七九六	一七九六	一七九六	一七九三	一七九三	一七九一	一七九一	一七九一	一七八九	一七八九	一七八九	一七八九	一七八九	一七八九
寛政八	寛政八	寛政八	寛政五	寛政五	寛政三	寛政三	寛政三	寛政一	寛政一	寛政一	寛政一	寛政一	寛政一
二月四日	一月二十二日	一月二十二日	二月	二月二十九日	この年	三月	一月	この年	九月十六日	八月四日	七月	○月十六日	六月五日
観如房元瑤、智積院梅寮で西院大事許可を伝授される。〔智山書庫〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、「諸法流目録」を伝授する（一月五日）。〔智山書庫〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、智積院梅寮で広沢方諸流を伝授する。〔学匠目録〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、禪証より「伝流奉幣作法」を伝授され書写する。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院で実体房良俊（尾張国名古屋長久寺第二十四世）から「月輪観頌釈」を伝授される。〔智山書庫〕	照から御流神道を伝授される。〔真福寺列祖伝〕	隆秀、智積院滝寮で通紹房動潮（智積院第二十二世）から大日経奥疏を授けられ。『大日経奥疏開書』『大疏伝授私記』を著す（八月）。〔智山書庫、学匠目録〕	良空、智積院南寮で随身の教師から『引導作法』を伝授され書写する。〔新文庫〕	観如房元瑤、智積院で春道本『大疏伝授抄』を書写する。〔智山書庫〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、京都北野大報恩寺養命坊で『御遺告伝授手鑑』を著す。〔学匠目録〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、受者十六名に「作法集伝授手鑑」を伝授する。〔学匠目録〕	観如房元瑤、京都北野大報恩寺で通紹房動潮（智積院第二十二世）から「厚双紙」を伝授される。〔学匠目録〕	通紹房動潮（智積院第二十二世）、受者十六名に「諸尊要鈔伝授手鑑」を伝授する（二十日）。〔学匠目録〕	観如房元瑤、秘鈔異尊法伝授の際、栄厳本『野決抄』を書写する。〔智山書庫〕

234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222
一八〇九	一八〇九	一八〇九	一八〇九	一八〇五	一八〇五	一八〇五	一八〇四	一八〇三	一八〇二	一八〇二	一八〇二	一七九八
文化六	文化六	文化六	文化六	文化二	文化二	文化二	文化一	享和三	享和二	享和二	享和二	寛政十
八月四日	五月二十二日	五月二十二日	三月	六月七日	二月中旬	一月十五日	四月	この年	六月三日	五月十五日	三月四日	八月三日
唯明房隆瑤(智積院第三十三世)、『先徳略名口決』および頼瑤本『印可記』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	大幢房信海(智積院第三十七世)、恵岳(弘基、智積院第三十世)から西院印信を伝授される。〔智山書庫〕	恵岳(弘基、智積院第三十世)、観如房元瑤から智積院勸学院道場で西院流印信を伝授される。〔智山書庫〕	智積院豊春房謙順化主、智積院所化衆の求めにより報恩院流を伝授する。〔智積院史〕	観如房元瑤、『要法授訣鈔』を伝授され他本をもつて校合する。〔智山書庫〕	観如房元瑤、『薄草子伝授聞書』『薄聞鈔』を常安に書写させ、弁瑞に校合させる。〔智山書庫〕	観如房元瑤、『諸儀軌伝授目錄』を筆生に書写させる。〔智山書庫〕	隆秀、安房小網寺で『当流四度加行』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	山書庫〕 観如房元瑤、通明房慈順(智積院第二十五世)から『浴像作法 私』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	通明房慈順(智積院第二十五世)、作法集・玄秘鈔伝授手鑑・諸尊要抄伝授手鑑・秘藏金宝集を伝授する(〓十一日)。〔智山書庫〕	通明房慈順(智積院第二十五世)、作法集・玄秘鈔伝授手鑑・諸尊要抄伝授手鑑・秘藏金宝集を伝授する(〓十五日)。〔智山書庫〕	智積院通明房慈順化主、『自秘鈔至灌頂部耳底記』を伝授する(〓五月二十七日)。〔智山書庫〕	通明房慈順(智積院第二十五世)、受者十一名に作法集・玄秘鈔伝授手鑑・諸尊要抄伝授手鑑・秘藏金宝集を伝授する(〓十日)。〔智山書庫〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235
一八一	一八一	一八一	一八一	一八一〇	一八一〇	一八一〇	一八一〇	一八〇九	一八〇九	一八〇九	一八〇九	一八〇九	一八〇九
文化八	文化八	文化八	文化八	文化七	文化七	文化七	文化七	文化六	文化六	文化六	文化六	文化六	文化六
六月	六月十三日	五月四日	○月二十四日	この年	九月二十七日	五月二十日	四月二十九日	九月	九月十六日	九月十六日	九月十五日	九月十一日	九月一日
義本房契実、『阿字観』を校合する。また、『伝法灌頂伝授聞書』を伝領する。〔智山書庫〕	観如房元瑜、『薄後重伝授要意』を著す。〔学匠目録、智山書庫〕	観如房元瑜、智積院禪寮で『薄初重伝授要意』を著す。〔学匠目録、智山書庫〕	観如房元瑜、智積院禪寮で『不動護摩伝授要意』を著す。〔学匠目録、智山書庫〕	観如房元瑜、心神宮祭祀日に智積院禪寮で『金剛界伝授要意』を著す。〔学匠目録〕	観如房元瑜、智積院禪寮で『胎藏界伝授要意』を著す。〔学匠目録〕	観如房元瑜、『十八道加行作法如意輪念誦次第伝授要意』を著す。〔学匠目録〕	観如房元瑜、『十八道加行作法伝授要意 如意輪念誦次第伝授要意』を著す。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、豊春房謙順本『中院口決』を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院豊春房謙順化主から華嚴院聖恵親王法流・伝流御室相承・保寿院流印信を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、安流小巻 安流後問答 安流阿字黒箱』を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院豊春房謙順化主から『西院 嵯峨十一糞御室六糞明星院十一糞并浄妙相承三包』を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院豊春房謙順化主から『勤修寺根来相承・三宝院意教流願行方慈猛流・理水十三糞三卷頼瑜相承を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院豊春房謙順化主から『松橋方浄空相承六包』を伝授される。〔智山書庫〕

263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249
一八二〇	一八二〇	一八一六	一八一六	一八一五	一八一四	一八一三	一八二二	一八二二	一八二二	一八二二	一八二二	一八二二	一八二二	一八二二
文政三	文政三	文化十三	文化十三	文化十二	文化十一	文化十	文化九	文化九	文化九	文化九	文化九	文化九	文化九	文化九
この年	八月	〇月一日	八月十六日	春	八月十六日	この年	七月二十日	六月上旬	五月	五月下旬	五月十二日	四月十八日	三月四日	二月三日
大願、髮切山慈光律寺で『伝法灌頂諸作法 幸心』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、江戸愛宕田福寺道場で同寺住職観如房元瑜から「松橋方」〔御流 北院方〕を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院恵岳（弘基）化主から『胎蔵界口訣』を伝授される。〔智山書庫〕	智本房海応（智積院第三十二世）、智積院恵岳（弘基）化主から「金剛界口訣」を伝授され、『金剛界口訣 土巨覚雄方』を著す。〔智山書庫〕	智積院恵岳（弘基）化主、讃岐国萩原で報恩院流の伝授を行う。〔智積院史〕	観如房元瑜、『作法集伝授要意』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	観如房元瑜、上総国小久保真福寺で『野決鈔』を伝授され、順教に書写させる。〔智山書庫〕	観如房元瑜、経蔵の蔵書虫晒しの後、『厚双紙伝授要意』を著す。〔智山書庫〕	観如房元瑜、『御遺告伝授要意』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	山書庫〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、観如房元瑜より伝授された『水天供龍索』を書写する。〔智山書庫〕	観如房元瑜、『玄秘鈔伝授要意』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	観如房元瑜、『諸尊要鈔伝授要意』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	観如房元瑜、『金宝集伝授要意』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	観如房元瑜、智積院模寮で、『秘鈔伝授要意』を書写する。〔智山書庫〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264
一八二八	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三	一八二三
文政十一	文政六	文政六	文政六	文政六	文政六	文政六	文政五	文政五	文政五	文政五
七月二十八日	十月十四日	八月七日	三月五日	二月	二月十日	一月	秋	四月二十三日	二月	二月二十三日
大願、梅尾高山寺十無尽院で僧護阿闍梨から『梅尾山伝受次第』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	江戸愛宕円福寺観如房元瑜、同寺で『沢 仁和寺』を伝授される。〔智山書庫〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、『諸儀軌伝授目録』を筆生に書写させる。〔智山書庫〕	智本房海心（智積院第三十二世）、文化六年九月に豊春房謙順から伝授された『勸水十一巻根来相承』を書写する。〔智山書庫〕	智本房海心（智積院第三十二世）、文化六年九月に豊春房謙順から伝授された『新安水』を書写する。〔智山書庫〕	智本房海心（智積院第三十二世）、文化六年九月に豊春房謙順から伝授された『三宝院流・意教流願行方・慈猛流をまとめ、『三宝院意行方慈猛流息障院相承』を著す。〔智山書庫〕	智本房海心（智積院第三十二世）、前年九月に伝授された頼瑜相承の『金剛王院』五巻ならびに憲寿房道本『阿字観并口訣』を書写する。〔智山書庫〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、安房国府中宝珠院で通紹房動潮本『御遺告伝授手鑑』『諸尊要鈔伝授手鑑』を書写し校合する。〔字匠目録〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、江戸愛宕円福寺で空寛房寛眼本『薄初重伝授記』を書写する。〔字匠目録〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、江戸愛宕円福寺で空寛房寛眼本『金剛界念誦次第伝授記』を書写する。〔字匠目録〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、江戸愛宕円福寺で空寛房寛眼本『胎藏界念誦次第伝授記』を書写する。〔字匠目録〕

285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275
一八四一	一八四一	一八四一	一八三三	一八三三	一八三三	一八三三	一八三一	一八三一	一八三一	一八三一
天保十二	天保十二	天保十二	天保四	天保三	天保三	天保三	天保二	天保二	天保二	天保二
五月八日	三月	一月	春	三月十五日	一月	一月	この年	十一月	九月	九月十五日
「埼玉長久寺文書」 音長房先普（智積院第三十五世）、伝授阿闍梨として武蔵国越生法恩寺で伝法灌頂を勤修する。	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、『保寿院伝授目録』等を書写する。「智山書庫」	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、親如房元瑜が江戸愛宕田福寺で諸法流の伝授を行った際の『手控用意記』を校合し、『諸法流伝授要意』を著す。「学匠目録」	大幢房信海（智積院第三十七世）、『弁財天供養念誦法』および龍肝本『許可伝授作法』を書写する。「智山書庫」	智積院智本房海心化主、二十二回にわたり文京房明弁に大日経奥疏を伝授する。「学匠目録、智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、龍肝本『安祥寺最極秘書目録』、『大疏伝授私記』を書写する。「智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、智積院智本房海心化主の講義を受け、『大疏伝授私記』を書写し校合する。「智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、龍肝から『伝法口決』を伝授され、書写し校合する。「智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、龍肝本『念誦供養儀軌次第等総目』『安流折紙伝授日記』等を書写する。「智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、『頓証菩提法』『最極秘密大事口伝』『安祥寺流伝授手鏡』等を書写し校合する。「智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、六波羅蜜寺普門院行海本『祥流帖帳伝授記』を書写し、翌年三月校合する。「智山書庫」

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286
一八四九	一八四九	一八四九	一八四八	一八四八	一八四八	一八四八	一八四八	一八四八	一八四三	一八四二	一八四一
嘉永二	嘉永二	嘉永二	嘉永一	嘉永一	嘉永一	嘉永一	嘉永一	嘉永一	天保十四	天保十三	天保十二
七月十六日	七月四日	三月四日	九月十九日	八月十七日	春夏	五月	四月八日	二月	三月	三月二十九日	十月十五日
龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、梅尾高山寺方便智院慧友房僧護から「印信大唐人々語」を伝授される。〔智山書庫〕	義観房弘現（智積院第四十世）、『辛心流伝授目録』を著す。〔智山書庫〕	龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、豊春房謙順本『伝流投花初後夜形』を伝授され、書写する。〔智山書庫〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、六波羅蜜寺普門院行海本『土巨流伝授開書房玄方常明僧正説智幢僧正説法操比丘校』を書写する。〔智山書庫〕	龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、『灌頂秘口三初夜』および『喬怡自筆本』『広伝受記』を書写する。〔智山書庫〕	龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、梅尾高山寺方便智院慧友房僧護から「印可次第 広沢」「小島第九大事」を伝授され書写する。〔智山書庫〕	龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、梅尾高山寺方便智院慧友房僧護から「七俱胝仏母心陀羅尼法」『准提念誦次第』を伝授され書写する。〔智山書庫〕	龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、梅尾高山寺方便智院慧友房僧護から「常喜院大事」を伝授される。〔智山書庫〕	龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、六波羅蜜寺普門院契理本『伝流灌頂教誡詞并返答』・同『伝法院流印可前行両大師所作』・同『伝流十八道作法伝授作法』を書写する。〔智山書庫〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、恵旭房曇寂著『如実知自心章別記』・同『土巨流伝授目録』を書写し校合する。〔学匠目録、智山書庫〕	大願、出羽国水居郷亀岡大聖寺で、『不動護摩私記』を伝授し書写する。〔智山書庫〕	照融、戒舟房禪宅（智積院第三十四世）から根来寺中性院流を伝授される。〔智山書庫〕

310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298
一八六三	一八六三	一八六一	一八六一	一八五六	一八五六	一八五六	一八五五	一八五五	一八五五	一八四九	一八四九	一八四九
文久三	文久三	文久一	文久一	安政三	安政三	安政三	安政二	安政二	安政二	嘉永二	嘉永二	嘉永二
十月十五日	七月一日	八月	三月	七月四日	四月三日	春	八月十八日	春	二月二十五日	九月十四日	八月二十日	八月一日
智積院龍謙房隆栄化主、「伝法院流伝受目録」を伝授する。〔智山書庫〕	龍存房隆願、智積院龍謙房隆栄化主から『伝流四度加行作法』を伝授され、通紹房動潮本をもつて書写する。〔智山書庫〕	豊龍房快速（智積院第四十六世）、阿波国正興律院光円より西院流を伝授され、越後国に帰る。〔智積院史〕	智友房宥性（智積院第四十三世）、大音房契理に神道灌頂を伝授する。〔智積院史〕	義範房現覚（佐々木義範、智積院第四十一世）、『幸心流伝授目録』を著す。〔智山書庫〕	江戸愛宕真福寺龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、智積院方丈での講釈伝授の際、智方房に大幢房信海本『黒箱大事 本願大師』を書写させる。〔智山書庫〕	〔智山書庫〕	江戸愛宕真福寺龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、「保寿院流伝授目録草案」等を伝授される。	義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、智積院大幢房信海化主から『伝法大会精義手控』を伝授される。〔智山書庫〕	智積院大幢房信海化主、幸心流を伝授する。〔智積院史、智積院誌〕	武蔵国御所息障院随翁、観寿から「延三七歳大事」を伝授される。〔息障院文書〕	勢瑜、龍謙房隆栄（智積院第三十九世）から伝流大事を伝授される。〔智山書庫〕	勢瑜、智積院勸学院で龍謙房隆栄（智積院第三十九世）から伝流諸大事を伝授される。〔智山書庫〕



『智山年表 [近世篇]』からの語彙と用例採取について

313	312	311
一八六七	一八六七	一八六六
慶応三	慶応三	慶応二
六月	一月	四月
義範房現覚（智積院第四十一世）から報恩院一流を伝授される。〔智積院史〕	俊伝房宗盛（伊藤宗盛、智積院第四十八世）、智積院龍謙房隆栄化主から神祇伝授を授かり、	現栄、智明より『秘蔵宝鑰講述』を伝授される。〔智山書庫〕

※(こ)での網かけ部分は、「伝受」を示している。

## 《講義》

番号	西暦	和暦	月日	事項
11	一六〇九	慶長十五	春	智積院長善房祐宜化主、智積院で、『釈摩訶衍論』の算題「三身成道」を講義する。〔同書奥書〕
10	一六〇九	慶長十四	十二月	智積院長善房祐宜化主、智積院で、『釈摩訶衍論』の算題「三身成道」を講義する。〔学匠目録〕
9	一六〇九	慶長十四	十二月二十一日	智積院長善房祐宜化主、智積院で『大日経疏第三重』の算題「悉地寛狭」を講義する。〔学匠目録〕
8	一六〇九	慶長十四	七月下旬	智積院長善房祐宜化主、智積院で『大日経疏第三重』の算題「証寂然界」を講義する。〔学匠目録〕
7	一五九三	文禄二	五月	長善房祐宜（智積院第二世）、陸奥国岩城葉王寺で、所化衆に『九条錫杖私記』を講義する。その際、『錫杖経鈔』を著す。〔同書奥書、学匠目録、全末目録、智積院誌〕
6	一五九一	天正十九	三月二十四日	長善房祐宜（智積院第二世）、陸奥国岩城葉王寺で『理趣経』を講義し、その際『理趣経旧草集』を著す〔学匠目録、新文庫〕
5	一五七五	天正三	一月	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺で初めて『般若理趣経』について講義する。〔延寿護法録〕
4	一五七二	元亀三	四月	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺の法華八講で、『釈論第三重』のうち「三身成道」を講義する。〔学匠目録〕
3	一五七一	元亀二	八月	長善房祐宜（智積院第二世）、『釈論第三重』のうち「最高大身」を講義する。〔学匠目録〕
2	一五七〇	元亀一	一月下旬	長善房祐宜（智積院第二世）、『釈論百条第三重』のうち「無為第八」を講義する。〔学匠目録〕
1	一五六九	永禄十二	八月二十一日	長善房祐宜（智積院第二世）、根来寺月次論義で『釈論百条第三重』のうち「大乘通局」を講義する。〔学匠目録〕

『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
一六九九	一六九九	一六九八	一六九一	一六八五	一六六七	一六五四	一六四八	一六三七	一六三一	一六三〇
元禄十二	元禄十二	元禄十一	元禄四	貞享二	寛文七	承応三	慶安一	寛永十四	寛永八	寛永七
〇月十八日	〇月十二日	この年	七月五日	十月	この年	三月	九月十五日	夏	二月	九月
江戸愛宕円福寺空寛房寛眼（智積院第十一世）・同真福寺超然房性遍、桂昌院の江戸大塚護国寺参詣の際、「光明真言照闇抄」について講義を行う。〔隆光僧正日記〕	江戸愛宕円福寺空寛房寛眼・同真福寺超然房性遍、桂昌院の江戸神田橋護持院参詣の際、講義を行う。〔隆光僧正日記〕	是心房快脊（智積院第十三世）、下総国米倉西光寺で「仁王経」を講義する。〔真福寺列祖伝、真福寺歴代譜〕	智積院陽春房信盛・長谷寺淳亮房卓玄阿能化、登城し、信盛は「大日経題号」について、卓玄は「即身義初段」をそれぞれ講義する。〔隆光僧正日記〕	岳泉房亮範（智積院第十五世）、越前国三国滝谷寺から智積院に登嶺し、智積院陽春房信盛化主の講義を受講する。〔結繩伝〕	文識房有鏡（智積院第九世）、智積院で法華を講義し、勤修寺門跡寛俊が臨席する。〔真福寺列祖伝〕	元春房運敵（智積院第七世）、人々の求めに応じ自らの著書『性霊集鈔』を講義する。聴衆は延べ八千人（『智積院誌』では四百人）に及んだと伝えられる。〔泊如僧正年譜、智積院史、智積院誌〕	『大日経』の経題および品号について講義する。〔泊如僧正年譜〕	元春房運敵（智積院第六世）、武藏国浦和玉蔵院で講義を行う。〔真言宗年表〕	仙丁房宥貞（智積院第六世）、武蔵国浦和玉蔵院で講義を行う。〔真言宗年表〕	元春房運敵（智積院第七世）、京都竹田安楽寿院頼運とともに智積院で正純房日誉化主に謁し、化主の講義を聴講する。〔泊如僧正年譜、智積院誌〕

34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
一七六九	一七六九	一七四五	一七四五	一七四五	一七四五	一七四五	一七四四	一七四四	一七三八	一七三七	一七〇五
明和六	明和六	延享二	延享二	延享二	延享二	延享二	延享一	延享一	元文三	元文二	宝永二
この年	二月十六日	十二月二十二日	十一月九日	三月十七日	二月二十九日	二月十三日	冬	春	この年	六月十一日	一月二十五日
豊春房謙順（智積院第二十八世）、智積院尾崎寮で慈潭房浄空（智積院第二十世）の『大日経疏』の講義を聞き、『大疏随類』を著す。〔智積院誌、智積院史、智山書庫〕	前化主慈潭房浄空（智積院第二十世）、『大日経奥疏』の講義を行う。〔学匠目録〕	如実房亮海、紀伊国那賀調月村大蔵明神社で『秘蔵宝鑰卷下講筈』を講義し著す。〔智山書庫〕	如実房亮海、紀伊国那賀調月村大蔵明神社で『秘蔵宝鑰卷上講筈』を講義し著す。〔智山書庫〕	匠目録、智山書庫〕	如実房亮海、紀伊国那賀薬師寺での「叫字義」の講義をまとめ、『叫字義講録』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	如実房亮海、紀伊国那賀薬師寺での「声字義」の講義をまとめ、『声字義講録』を著す。〔智山書庫、学匠目録〕	如実房亮海、根来寺で「大日経住心品疏因（大日経教主古今異説集）」を講義する。〔智山書庫〕	如実房亮海、根来寺密厳院境内の求聞寺堂で「即身成仏義」を講義する。〔学匠目録〕	如実房亮海、延享一年の「即身成仏義」の講義をまとめ、校合を加え『即身成仏義講筈』を著す。〔学匠目録〕	恵旭房曇寂、『大日経疏私記』を講義する。〔智山書庫〕	江戸愛宕円福寺空寛房寛眼・同真福寺禪海房連寿、徳川綱吉の江戸神田橋護持院参詣の際、隆光による「無量寿儀軌」の講義に出仕する。またそれぞれ、銀十枚ずつを与えられる。〔徳川実紀、隆光僧正日記〕

## 『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35
一八一八	一八一五	一八〇九	一八〇一	一七九四	一七九〇	一七八〇	一七七七	一七七七	一七七六	一七七五	一七七五	一七七七
文政一	文化十二	文化六	享和一	寛政六	寛政二	安永九	安永六	安永六	安永五	安永四	安永四	明和八
秋	一月	この年	五月十八日	四月二十六日	春	この年	冬	秋	この年	この年	この冬	六月十二日
宝体房良俊、尾張国名古屋長久寺で「因明入正理論」を講義する。〔学匠目録〕	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、智本房海応（智積院第三十二世）の講義により前年一月に著した『瑜伽积聴要記』注記を施す。〔智山書庫〕	恵岳（弘基、智積院第三十世）、備前国・備中国・讃岐国・伊予国等で密教を講義し、伝法灌頂等を行う。〔智積院史〕	観如房元瑜、一般若心経秘鍵講翼」を講義する。〔智山書庫〕	観如房元瑜、智積院滝寮で「秘蔵宝鑰」を講義し、「秘蔵宝鑰講翼」を著す。〔智山書庫〕	戒光房観豪（智積院第二十九世）、紀伊国岩出関伽井寺で『五教章』を講義する。〔智積院史〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、『華嚴五教章』を講義し『五教章玄談』を著す。〔智積院史〕	戒光房観豪（智積院第二十九世）、智積院で「般若心経」を講義する。〔智積院史〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、智積院で「四教義」を講義する。〔智積院史〕	〔智積院史、密教大辞典〕 豊春房謙順（智積院第二十八世）、理性院泉観の求めに応じ、同院で「二教論」などを講義する。	積院史、密教大辞典」 豊春房謙順（智積院第二十八世）、智積院所化衆の求めに応じて『十卷章』を講義する。〔智積院史〕	豊春房謙順（智積院第二十八世）、智積院で「三論玄義」を講義する。〔智積院史〕	前化主慈譚房浄空（智積院第二十世）、京都北野大報恩寺養命坊で、『住心品疏』を講義する。豊春房謙順（智積院第二十八世）が受講し、『大疏随類』を著す。明和六年のものと合わせて十九巻となる。〔智積院史〕

59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
一八三八	一八三七	一八三六	一八三五	一八三二	一八三〇	一八二八	一八二七	一八二七	一八二四	一八二三	一八一九
天保九	天保八	天保七	天保六	天保三	天保一	文政十一	文政十	文政十	文政七	文政六	文政二
冬	三月	この年	この年	一月	○三月十日	三月四日	この年	三月二十三日	四月二十一日	春	四月
龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、根来寺光明院で、「俱舍論」の講義を行った際、聴衆の希望に応じて『阿毘達磨俱舍論玄談 有宗七十五法五縛記』を著す。「智山書庫、学匠目録」	大幢房信海（智積院第三十八世）、根来寺で「大乘法苑義林章」について講義する。「学匠目録」	大幢房信海（智積院第三十八世）、紀伊国和歌山城下円藏院で智友房宥性（智積院第四十三世）等に「唯識述記」を講義する。「智積院史」	根来寺大幢房信海（智積院第三十七世）、同寺で「俱舍論」を講義する。「智積院史、智積院誌」	大幢房信海（智積院第三十七世）、智積院智本房海応化主の講義を受け、『大疏伝授私記』を 書写し校合する。「智山書庫」	智山書庫 唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、所化数名に対し「秘蔵宝輪講翼」を講義する。「学匠目録、智山書庫」	大幢房信海（智積院第三十七世）、京都養源院で延べ受講者六百人余に「大乘法苑義林章玄談」を講義する（三月十八日）。「智積院史、智積院誌、智山書庫」	大幢房信海（智積院第二十七世）、京都養源院で受講者三百人余に「唯識述記」を講義する。「智積院史、智積院誌」	大幢房信海（智積院第三十七世）、「大乘法苑義林章玄談」を講義する（四月六日）。「智山書庫」	江戸愛宕円福寺観如房元瑜、五月九日までに十九回、「純秘鈔」を講義する。「学匠目録」	大幢房信海（智積院第三十七世）、智積院校寮で学侶に「俱舍論」を講義し、『宗輪述記私記』を著す。「学匠目録、智山書庫」	唯明房隆瑜（智積院第三十三世）、安房国府中宝珠院で「西谷名目」を講義し、『西谷名目録 縁減行拔萃録』を著す。「智山書庫、学匠目録」

『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60
一八五〇	一八四九	一八四九	一八四九	一八四八	一八四八	一八四八	一八四七	一八四六	一八四五	一八四五	一八四四
嘉永三	嘉永二	嘉永二	嘉永二	嘉永一	嘉永一	嘉永一	弘化四	弘化三	弘化二	弘化二	弘化一
三月四日	この年	七月二十二日	五月二十八日	この年	この年	五月二十三日	この年	この年	この年	二月	三月
<p>義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、この日より『成唯識論述記』を計百四十五回講義し、その内容を著す。〔学匠目録、智山書庫〕</p>	<p>智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、「因明大疏」「瑞源記」「四教義集註」を講義する。〔智積院史〕</p>	<p>義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、『百法問答鈔私記 百法問答鈔分』を計四十二回講義し、その内容を著す。〔学匠目録、智山書庫〕</p>	<p>義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、『唯識三類境選要』を講義する。〔学匠目録〕</p>	<p>智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、智積院で「五教章」「金七十論」を講義する。〔智積院史〕</p>	<p>智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、尾張国名古屋福生院で法泉房実因（智積院第四十二世）に「十卷章」「住心品」を講義する。〔智積院史〕</p>	<p>義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、『百法問答鈔』をこの日より計四十一回講義する。〔学匠目録〕</p>	<p>智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、笠置山で「十卷章」「五教章」を講義する。〔智積院史〕</p>	<p>智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、智積院で「五教章」を講義する。〔智積院史〕</p>	<p>智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、智積院で「十句義論」を講義する。〔智積院史〕</p>	<p>義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、『百法問答鈔分科』を講義する。〔智山書庫〕</p>	<p>龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、京都寺町大雲寺において『阿毘達磨俱舍論玄談 有宗七十五法五縛記』をもとに「俱舍論」を講義する。〔智山書庫〕</p>

81	80	79	78	77	76	75	74	73	72
一八六六	一八六四	一八五九	一八五四	一八五四	一八五二	一八五一	一八五一	一八五一	一八五〇
慶応二	元治一	安政六	安政一	安政一	嘉永五	嘉永四	嘉永四	嘉永四	嘉永三
この年	夏	五月六日	この年	三月四日	この年	この年	三月十五日	一月十三日	この年
智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、安房国府中宝珠院で「十卷章」を講義する。「智積院史」	智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、御室仁和寺宮純仁親王の招きに応じ、「十卷章」を講義する。「智積院史、真福寺列祖伝」	義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、「秘藏宝鑰弁顕密二教論講会席教記」を講義する。「智山書庫」	智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、安房国清澄寺で「起信義記」を講義する。「智積院史」	義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、「成唯識論述記」を計百六十七回講義する（〓九月三日）。〔学匠目録〕	京都北野清和院龍謙房隆栄（智積院第三十九世）、同寺で「唯識述記」を講義する。「智積院誌」	智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、「三十三過本作法」を講義する。「智積院史」	この日から計九十二回講義する。〔学匠目録〕	義観房弘現（丹藤弘現、智積院第四十世）、浄土宗の僧衆に求められ、「大乘法苑義林章」をこの日から計二十二回講義する。〔学匠目録〕	智友房宥性（金剛宥性、智積院第四十三世）、「俱舍論」を講義する。「智積院史」



『智山年表〔近世篇〕』からの語彙と用例採取について

《講伝》

番号	西暦	和暦	月日	事項
1	一六〇三	慶長八	この年	長存房元寿（智積院第四世）、長谷寺に登り、宮賢房專譽（長谷寺第一世）より講伝を受ける。 〔智積院史〕
2	一七七一	明和八	この年	前化主慈譚房浄空（智積院第二十世）、京都北野大報恩寺で「六釈・転声」を講伝する。〔智積院史、智積院誌〕

註

- (1) 佐藤師をお招きした講演会の内容は、現代密教第二十六号（二七三―一八八頁）を、石井師については宗報二〇一五（平成二十七）年十月号（十一―十二頁）を参照のこと。
- (2) 『密教大辞典』（法藏館、昭和六十二年）において「梵語」(二〇六三頁)の意味内容を確認すると、隋で悉曇という語が新たに使われるようになって以来、日本では明治時代まで専ら「梵語＝悉曇」という意味で用いられていたとある。そのため、ここでは梵語も悉曇も同一義として扱った。
- (3) 五十五―七〇頁。該当箇所については六十二―六十三、六十七頁を参照のこと。

〈キーワード〉  
講義 講伝 伝授